二〇二一年五月一五日

新緑を水面に揺らす舟下り　素秀

南風寄せて河口にたちし波頭　素秀

干し鰈吊るす洗濯鋏みかな　うつぎ

国旗社旗ならびて掲ぐ鯉幟　凡士

母の日やタンスに残る肩揉み券　小袖

万太郎忌電波時計の狂ひなし　かかし

花嫁のヴェールの揺るる若葉風　よう子

茶摘とて媼もっとも若やげる　うつぎ

コロナマスク下げて新茶の香を利けり　うつぎ

卯波蹴り浚渫船の淀下る　はく子

夏霞相呼応せる沖汽笛　わかば

対岸の津の嶺の模こと夏霞　はく子

窓べりに物見の猫の昼寝かな　こすもす

あまどころ辞儀す古道の道標　なつき

茶摘女の白々と指長きかな　よう子

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年五月一六日